

想定される選択肢及び規模、メリット、デメリット

選択肢		1	2	3	4	5
		4つの中学校を1つの中学校にした場合	小規模校を1つにした場合	今までの4つの中学校の場合	併設型の小学校・中学校の場合	その他
規模	生徒数	約700人	約300人	中条中：1学年約4学級 3中学校：1学年1学級 (20名～30名程度)	きのと小(183)+乙中(80)→263名 *学級数(6)+(3)→9学級 築地小(184)+築地中(83)→267名 *学級数(6)+(3)→9学級 黒川小(206)+黒川中(110)→316名 *学級数(7)+(4)→11学級	
	学級数	6学級(1学年約230人)	3学級(1学年約100人)			
	教職員数	統合前 統合後 61人 → 約40人	統合前 統合後 34人 → 約16人	中条中27名 乙中11名 築地11名 黒川中12名	現状のまま	
メリット		①切磋琢磨の機会が増える。 ②部活動の部員が確保できる。 ③学級替えができる。	①切磋琢磨の機会がある程度増える。 ②部活動の部員が、ある程度確保できる。 ③学級替えができる。	①地域コミュニティとしての学校が地域に残る。 ②生徒に対して、きめ細かな指導・対応ができる。(生徒に向き合う時間の確保につながる) →学力保障、生徒指導上の問題の減少	①地域コミュニティとしての学校が地域に残る。 ②生徒に対してきめ細かな指導・対応ができる。 →学力保障、生徒指導上の問題の減少 ③義務教育9年間の切れ目ない指導で中1ギャップの解消 ④小中交流による「自己肯定感」「憧れ」等の醸成	
デメリット		①教職員数が減少する。 ②きめ細かな生徒への支援が難しくなることが心配される。 ③通学距離が長くなる。 ④地域から中学校がなくなる。	①教職員数が減少する。 ②中学校の立地場所の選択が難しい。 ③通学距離が長くなる。 ④地域から中学校がなくなる。	①切磋琢磨する教育活動が不足する。 ②人間関係に変化がなく、固定化する。 ③部活動に制約が生じ、希望する部活動ができない。	①切磋琢磨する教育活動が不足する。 ②人間関係に変化がなく固定化する。 ③部活動に制約が生じ、希望する部活動ができない。	
課題解決方法		↓	↓	↓	↓	↓